**2017年 8月 1日(第3版)
*2016年12月 7日(第2版)(新規記載要領に基づく改訂)
医療機器認証番号：222AGBZX00114A02

機械器具18 血圧検査又は脈波検査用器具
管理医療機器　特定保守管理医療機器　医用電子血圧計(ＪＭＤＮコード：16173010)

*ワンハンド電子血圧計 KM-370Ⅱ（/C）

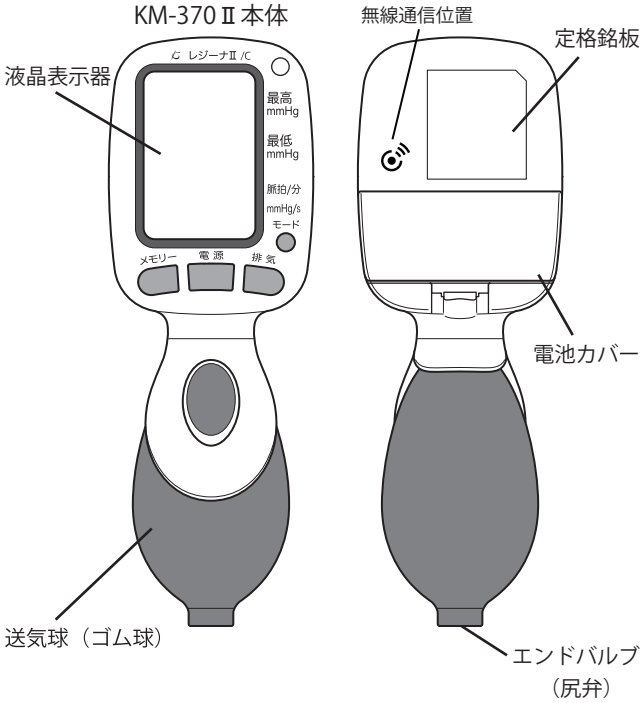
*【警 告】
《使用方法》
● 本品の周辺で電磁波を発生する機器（携帯電話、無線機器、電気メス、除細動機器等）を使用する場合は、出来るだけ離れた位置（15 ㎝程度以上）で使用してください。
［誤動作を生じる可能性があります。］

*【禁忌・禁止】
《適用対象（患者）》
●重度の血行障害がある人は、必ず医師と相談のうえ使用してください。
［症状が悪化する可能性があります］
《使用方法》
●病院内の麻酔ガスなど可燃性ガスの近くで使用しないでください。
［引火の危険性があります］
●病院内の高気圧酸素治療室や酸素テント内など高濃度酸素下では絶対に使用しないでください。
［発火の危険があります］

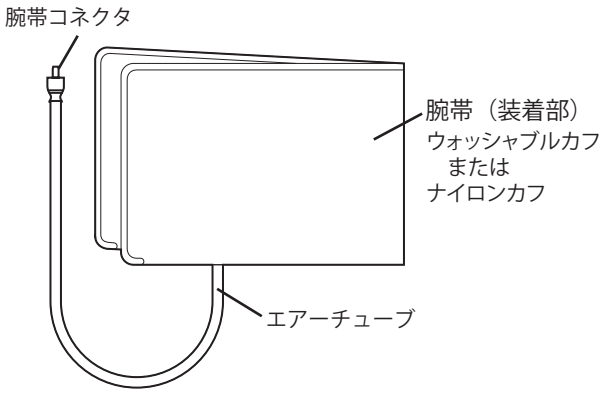
**【形状・構造及び原理等】

（各部の名称）

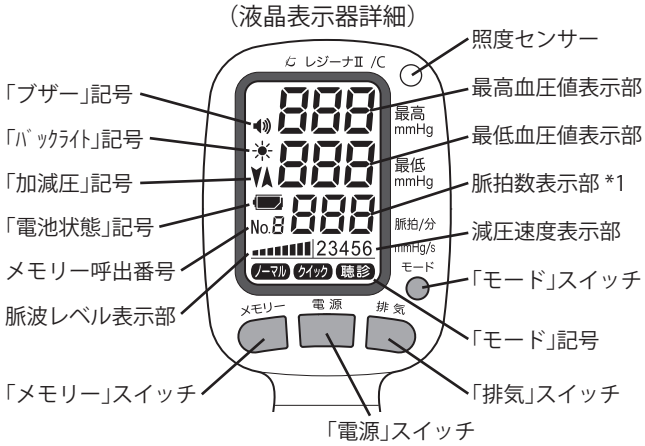
KM-370Ⅱ本体



*体に接触する部分の原材料
本　体：ABS
送気球：シリコンゴム
腕　帯：PVCまたはナイロン
エアーチューブ：PVC
スイッチ：TPE



（液晶表示器詳細）



*1：加圧及び減圧中は、圧力値を表示

*
標準付属品

腕帯	1個
（ｳｫｯｼｬﾌﾞﾙｶﾌにはｺﾈｸﾀｰﾌﾟﾗｸﾞ(洗浄用ｷｬｯﾌﾟ)1ヶ入）	
取扱説明書（保証書付）	1部
添付文書	1部
単４電池（アルカリ乾電池）	2本

オプション
ﾚｼﾞｰﾅ用ｳｫｯｼｬﾌﾞﾙｶﾌ Sｻｲｽﾞ(14～25cm)
ﾚｼﾞｰﾅ用ｳｫｯｼｬﾌﾞﾙｶﾌ Mｻｲｽﾞ(24～40cm)
ﾚｼﾞｰﾅ用ｳｫｯｼｬﾌﾞﾙｶﾌ Lｻｲｽﾞ(32～50cm)
ﾚｼﾞｰﾅ用ﾅｲﾛﾝｶﾌﾞﾗﾀﾞｰｾｯﾄ Sｻｲｽﾞ(18～28cm)
ﾚｼﾞｰﾅ用ﾅｲﾛﾝｶﾌﾞﾗﾀﾞｰｾｯﾄ Mｻｲｽﾞ(24～40cm)
ﾚｼﾞｰﾅ用ﾅｲﾛﾝｶﾌﾞﾗﾀﾞｰｾｯﾄ Lｻｲｽﾞ(34～50cm)

KM-370用ｺﾞﾑ球ｾｯﾄ
ﾚｼﾞｰﾅ用ﾉｽﾞﾁｭｰﾌﾞ(1本入)
ｺﾈｸﾀｰﾌﾟﾗｸﾞ(洗浄用ｷｬｯﾌﾟ)(2ヶ入)
定期点検ｷｯﾄ

取扱説明書を必ずご参照ください

*（原　理）
動脈が腕帯の圧力で圧迫され、減圧過程で、動脈に血流が再開し、腕帯内に脈拍と同期してコロトコフ音
（以下「K音」という。）が発生する。
最初のK音の発生点（第１点）の圧力を最高血圧とし、腕帯圧が動脈圧力を阻害しないでK音の消失する点（第４点または第５点）の圧力を最低血圧とする。（リバロッチ・コロトコフ法）
K音は、本体に内蔵されたマイクロフォンにより検出され、マイクロコンピュータで処理し、最高血圧及び最低血圧値を決定する。
上記の過程で、動脈が腕帯の圧力で圧迫されると、動脈が心拍に合わせて脈動を起こし、それが腕帯圧上の脈動となる。
この脈動の大きさは、血圧と腕帯圧力との大小関係に応じて変化する。
オシロメトリック法は、腕帯圧力を徐々に変化させた時に見られる、この脈動の大きさの変化パターンをもとに最高血圧及び最低血圧値を決定する。
ノーマルモードでは、リバロッチ・コロトコフ法及びオシロメトリック法の併用で測定し、リバロッチ・コロトコフ法で K 音信号が所定値より小さく不明瞭だった場合、オシロメトリック法により血圧値を決定する。
クイックモードでは、オシロメトリック法により血圧値を決定する。
聴診モードでは、聴診法を用いて、加圧後、腕帯圧力を徐々に変化させた時に発生する血管音であるK音を検出して血圧を測定する。

（機器の分類）
電撃に対する保護の形式による分類：内部電源機器
電撃に対する保護の程度による装着部の分類：ＢＦ形装着部

（電気的定格）
電 源：単４電池２本
電 圧：DC３V
消費電力：0.7W（バックライト点灯時）
本品はＥＭＣ規格IEC 60601-1-2：2007 に適合している。

(特性・性能又は機能に関する規格）
・臨床性能試験による血圧測定の誤差：
基準とした血圧測定法との誤差の平均が±5mmHg 以内、誤差の標準偏差が8mmHg 以内
・カフ内圧力表示の誤差：
±3mmHg　以内（温度15℃～25℃、相対湿度20%～85%の下で加圧時及び減圧時測定範囲内の全域において）
・急速排気：
260mmHg から15mmHg に急速排気するために要する時間：10秒以下（新生児モードはもたない）

*(基本機能)
・自動測定機能
減圧中に自動測定を行い、同時に脈拍数も測定する。
測定が終了するとブザーが鳴り、大気圧まで排気される。
・ 測定モード切り替え機能
測定モードは次の３種類の測定モードを選択できる。
①ノーマルモード：
リバロッチ・コロトコフ法をベースにしてオシロメトリック法との併用で測定する。
②クイックモード：
オシロメトリック法により自動測定を行う。
③聴診モード：
測定した圧力のみを表示する。
※モード切替は取扱説明書を参照。

・排気機能
測定モードに応じて設定された排気速度で自動的に排気される。聴診モードで［排気］スイッチを押すと中抜きすることもできる。また、長押し（4 秒以上）すると、急速排気を行い測定を中止する。
ノーマル及びクイックモードで［排気］スイッチを押し続けると急速排気を行い測定を中止する。
・強制排気機能
電源が入っている状態で［電源］スイッチを押すと、機器の動作状態にかかわらず電源が切れ、強制的に排気される。
・メモリー機能
測定値は自動的に最大 50 件記録される。
記録した測定値は「メモリー」スイッチを押すことにより８件まで呼び出すことができる。
・ オートパワーオフ機能
加圧及び本体のキーを操作をしないで放置すると、約３分で自動的に電源が切れる。
（注）NFC リーダー / ライターにかざした状態では
本機能は動作しない。
・ マナーモード設定機能
ブザー音を消音状態に設定できる機能。
※詳細は取扱説明書を参照。
・ バックライト点灯機能
本体表示器面に取り付けられた照度センサーにより液晶表示器のバックライトを自動点灯させる機能。
※詳細は取扱説明書を参照。

**(その他の仕様)

血圧測定方式：	リバロッチ・コロトコフ法及び／又はオシロメトリック法
血圧測定部位：	上腕
血圧測定範囲：	40～250mmHg
脈拍数測定範囲：	20～199 回 / 分
圧力測定範囲：	3～300mmHg
目　　量：	1mmHg
精　　度：	圧　力　±3mmHg 脈拍数　±5%
加圧方式：	手動加圧
減圧方式：	自動減圧
排気方式：	自動排気又は［排気］スイッチ及び［電源］スイッチによる排気
表示方式：	3 桁デジタル表示
動作環境：	周囲温度 10～40℃ 相対湿度 85%RH 以下 （結露なきこと） 気圧範囲 70 ～ 106kPa
そ　の　他：	JIS T 1115:2005 非観血式電子血圧計に適合

*(付帯機能)
・ 測定時エラー検出機能（エラー表示）：
腕帯の不適切着用や体動等による測定時に検出した異常をエラー表示する。
・ 脈波ディスプレイ機能（脈波レベル表示）：
脈波が検出されると、脈波レベル表示部のバーレベルで脈波の大きさをバーグラフで表示する。
・ 圧力精度確認機能（検定モード）：
本体と基準圧力計を接続し、圧力精度を確認する。
※オプションの「定期点検キット」が必要。
・ 脈拍数表示機能（脈拍数測定）
ノーマル及びクイックモードでは測定が終了と最高血圧値及び最低血圧値を表示すると同時に脈拍数も表示する。
・ 外部通信機能
測定した血圧値及び脈拍数を無線通信で外部に送信する。
※専用の NFC リーダー / ライターが必要。

*（警報及び安全装置）

・電池電圧低下警報：
電池電圧が低下すると「電池状態」記号が点灯する。
更に電池電圧が低下すると「電池状態」記号が点滅し、それ以外の表示すべてが消え、大気圧まで排気される。

・加圧不足警報：
加圧が不足し、血圧測定できない場合に <Err 2> を点滅表示し、ブザーが鳴動する。

・異常加圧警報：
腕帯内圧が 300mmHg を超えると <Err 300> を表示し、大気圧まで排気される。

・通信エラー：
無線通信によるデータ転送の際、なんからの障害が発生した場合は <Err100> を表示します。

*【使用目的又は効果】

（使用目的）

動脈血圧の非観血的測定により、収縮期及び拡張期血圧を表示する。

*【使用方法等】

（測定準備）

1. 電池のセット
電池カバーを開けて、単４アルカリ電池を２本セットし、電池カバーを閉める。
2. 付属品の接続
付属の腕帯を本体に接続する。
3. 腕帯の巻きつけ
腕帯を上腕に巻きつける。

（測　定）

1. 本体の電源スイッチを押して、電源を入れる。
※ゼロ調整が終わり、測定可能状態になるまで待つ。
（数秒）
2. 必要に応じてモードスイッチにより測定モードを選択する。

ノーマルモード又はクイックモードの場合

3. 送気球により手動で予想される最高血圧値より +30 ～ 40mmHg を目安に液晶表示器の圧力値をモニターしながら加圧し、加圧操作を止める。
4. 自動的に減圧が始まり測定を開始する。
5. 測定が完了すると最高血圧値、最低血圧値及び脈拍数が表示され、自動的に排気される。
※この値を記録する。

・排気したいときには［排気］スイッチを押す。
・測定結果は自動的に最大 50 件まで記録される。
・連続して測定する場合は、改めて 3. 以降の操作を行う。

聴診モードの場合

3. 上腕動脈上に聴診器を置き、送気球にて、予想される最高血圧より高い圧力まで加圧する。
4. 加圧を終了すると、自動的に減圧が行われる。
※排気（中抜き）したいときには、［排気］スイッチを押す。
5. K 音を聴診しながら、最高、最低血圧値を測定する。
*6. 血圧の測定が終了したら、［排気］スイッチを長押し (4 秒以上) し、排気する。
7. 連続して測定する場合は、改めて 3. 以降の操作を行う。

（測定終了）

1. 測定値を記録するか、または専用の NFC リーダー / ライターに本器をかざして測定値を転送する。
2.［電源］スイッチを押して電源を切る。
3. 腕帯を外す。
※詳細については取扱説明書を参照すること。

*【使用上の注意】

（使用注意 ＜次の患者には慎重に適用すること＞）

・抗凝固剤、抗血小板剤、ステロイド剤等を使用している場合は、慎重に使用すること。
[内出血を起こす可能性がある。]
・ショック等による極端な低血圧患者では自動測定ができないことがある。その場合は、聴診モードで測定を行うこと。
［測定精度が保証できない。］
・小児への測定時等で体動があると、自動測定できないことがある。その場合は、聴診モードで測定すること。
［測定精度が保証できない。］

（重要な基本的注意）

・使用中にカブレが発生した場合は、直ちに使用を中止して専門家の医師に相談すること。
・取扱説明書に従い、正しい位置に腕帯を装着すること。
・腕帯と本体は、エアー漏れのないよう、確実に接続すること。
・エアーチューブは、ねじれた状態で本体に取り付けないこと。［本品の破損や故障、装置性能の劣化を引き起こす可能性がある。］
・測定値の正確さを得るために、次の点に注意すること。

1. 腕帯装着時
(1) 腕帯は腕のサイズに適合するものを使用すること。
(2) 素肌に直接腕帯を巻くこと。
(3) 測定する腕が水や汗等でぬれている場合は、必ずよく拭き取り、乾いてから使用すること。
(4) 腕帯の「ARTERY▼または○」記号に動脈位置が正しく合っていることを必ず確認すること。
(5) いつも同じ腕で、手のひらを上に向けて測定すること。
［右腕と左腕では測定値に差が出ることがある。］
2. 測定時
(1) 測定中に腕や手首、体を動かさず、安静な状態で測定すること。
(2) 腹部を圧迫した姿勢や、ひじを浮かせたり、ひじを極端に曲げた姿勢で測定しないこと。
(3) 寒い部屋では測定しないこと。［血圧が高くなる可能性がある。］
(4) 測定中は血圧計本体を振ったり、ゆらしたりしないこと。
(5) 連続測定によりうっ血した場合は、うっ血を取り除いてから測定すること。［測定値が変化することがある。］
(6) 加圧を必要以上に高くしないこと。［腕に一過性の内出血が発生することがある。］

3. データ転送時
(1) データ転送は、指定された NFC リーダー / ライターにかざして行うこと。
［予期せぬ故障の原因になる恐れがある]
(2) データ転送完了を確認してから NFC リーダー / ライターから 離すこと。
[データ転送が正常に行えない場合もある]
(3) 一度転送したデータは再度転送できないので十分に注意して転送を行うこと。

《相互作用、他の医薬品・医療機器との併用に関すること》
＜併用禁忌（併用しないこと）＞

** 医療機器の名称等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
高圧酸素患者治療装置	使用禁止	爆発または火災を引き起こすことがある
可燃性麻酔ガスおよび高濃度酸素雰囲気内での使用	使用禁止	爆発または火災を引き起こすことがある
磁気共鳴画像診断装置 (MRI)	MRI 検査を行うときは、患者から取り外すこと	誘導起電力により局部的な発熱で患者が熱傷を負うことがある

*【保管方法及び有効期限等】

（保管方法）
温度範囲　-20～50℃
湿度範囲　90%RH 以下（結露なきこと）
水ぬれ、日光及び高温多湿を避けて保管すること。

（保管上の注意）
・急激な温度変化のある所、極端に高温や低温になる所、湿度の高い所、直射日光の当たる所、ほこりの多い所、化学薬品の保管場所やガスの発生する所は避けてください。
・腕帯を無理に折り曲げ、小さくたたんだり、エアーチューブを強く折り曲げた状態で保管しないでください。

（耐用年数）
本体：５年 (自主規格による)
腕帯：１年または 10000 回（ＪＩＳ　Ｔ　1115：2005)
※指定の保守・点検並びに消耗品の交換を実施した場合

*【保守・点検に係る事項】
安全に使用するために、定期的に保守点検を実施し、各点検で異常が認められた場合は、直ちに使用を中止すること。

（使用者による保守点検事項）

点検項目	点検時期	主な点検内容
使用前点検	毎回	目視、機構、機能点検
年次点検	１年毎	定期点検キットによる

（業者による保守点検事項）

点検項目	点検時期	主な点検内容
定期点検	１年毎	目視、機構、機能、動作確認

*（清　掃）
・本体、送気球及び腕帯が汚れたときは、ガーゼ等の柔らかい布を水またはぬるま湯に浸し、よく絞ってからふきとってください。
・本体内部に、水や消毒液が浸入しないように水気をよく切ってから清掃してください。
・乾燥は乾いた柔らかい布で水気をよく拭き取り、自然乾燥してください。
・エンドバルブが詰まった場合は、ゴム球から取り外しネット側から空気を吹き付けて中のゴミを除去した後、取付方向に注意してゴム球に取り付けてください。
・「消毒」は下記に示す消毒液を使用して行ってください。

*(1)本　体及び腕　帯

成分名	主な製品名と販売会社	
イソプロピレンアルコール (70%)	70% イソプロピレンアルコール	和光純薬工業 (株)
エチルアルコール (80%)	消毒用エタノール (76.9～81.4vol%)	

※液晶表示部表面は、薬品を使用して消毒を行わないでください。

*(2) 腕　帯

成分名	主な製品名と販売会社	
グルコン酸クロムヘキシジン	5% ヒビテン液	大日本住友製薬 (株)
	マスキン液 (5w/v%)	丸石製薬 (株)
塩化ベンザルコニウム	オスバン 10% 消毒液	武田薬品工業 (株)
次亜塩素酸ナトリウム	病院用ハイター	花王 (株)

※消毒液の使用にあたっては、各消毒液の添付文書（希釈濃度等）に従ってください。
※次亜塩素酸ナトリウムはウォッシャブルカフのみにご使用ください。

【包　装】
１台／箱

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】
（製造販売業者）

ケンツメディコ株式会社
〒367-0206
埼玉県本庄市児玉町共栄 552 番地 1
Tel:0495-71-1001 Fax:0495-72-6716
URL　http://www.kenzmedico.co.jp

（製造業者）
ピーティ．エヌエスエス インドネシア
PT. NSS INDONESIA　（国名：インドネシア共和国）